

2020.8  
No.511

# 調査月報

---

県内経済の動向 ..... 1

県内主要業界の動向 ..... 4

県内経済トピックス ..... 10

主要経済指標 ..... 11

香港レポート ..... 15

---



山梨中央銀行

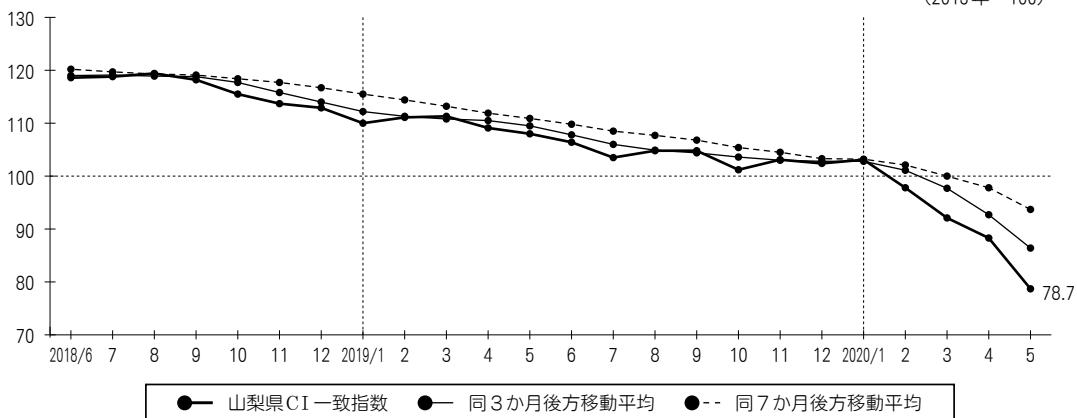
## 県内経済の動向

### グラフでみる県内景気

#### 山梨県景気動向指数(CI)の推移

— 山梨県CI(一致指数) —

(2015年=100)



5月の山梨県CI一致指数（2015年=100）は78.7となり、前月と比較して9.6ポイント下降し、4か月連続の下降となりました。3か月後方移動平均は6.36ポイント下降し、4か月連続の下降、7か月後方移動平均は3.22ポイント下降し、24か月連続の下降となりました。

「県統計調査課」

## 概況

最近の県内景気（6月～7月）は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続いているが、一部に下げ止まりの動きもみられる。生産面においては、機械工業で弱い動きが続いているが一部に堅調さも窺われる。需要面は、設備投資で慎重姿勢が強まっているほか、個人消費も一部に動きがみられたものの全体としては弱い動きとなっている。

**需要：**個人消費は、各種給付金の効果などにより一部に動きがみられたものの、不要不急の消費は依然低調であり、全体としては弱い動きとなっている。設備投資は、慎重姿勢が強まっている。

**生産：**機械工業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で弱い動きが続いているが、半導体製造装置やスマートフォン向け電子部品など一部に堅調さが窺われる。地場産業関連は、国内需要の縮小や原材料価格の上昇のほか、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全体として厳しい局面が続いている。

## 消費動向

6月～7月の商況をみると、各種給付金の効果などにより一部に動きがみられたものの、不要不急の消費は依然低調であり、全体としては弱い動き。

6月の乗用車販売は、前年同月比28.0%減(普通車34.8%減、小型車19.1%減)と、9か月連続の前年比減少。

6月の県内観光は、首都圏からの移動制限解除後、週末を中心に一時的な賑わいがみられた地域もあったものの、全体としては前年を大きく下回る状況が続く。

## 建設動向

**住宅建設**：新設住宅着工戸数(6月)は、前年同月比27.1%減と2か月連続の減少。利用関係別でみると、持家(前年同月比33.5%減)が2か月連続の減少、貸家(同1.5%増)が2か月ぶりの増加、分譲住宅(同24.2%減)が2か月連続の減少。

**公共工事**：公共工事保証請負額(6月：東日本建設業保証㈱)は151億52百万円で、前年同月比33.7%の増加。発注者別にみると、国が前年同月比92.7%増加、県が同32.5%増加、市町村が同1.7%増加。

## 雇用情勢

5月の有効求人倍率は0.97倍で、前月と比べて0.05ポイント低下。

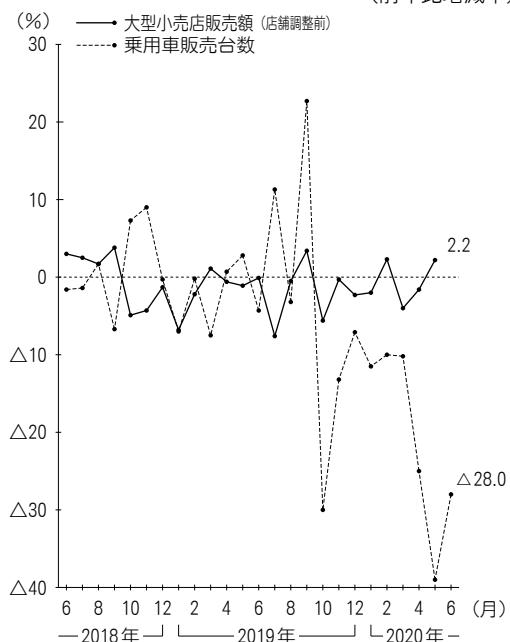
新規求人数は、前年同月比19.9%減と6か月連続の減少。産業別では、建設業、教育・学習支援業、医療・福祉等は増加、製造業、情報通信業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業、学術研究・専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、サービス業等は減少。

## 企業倒産

7月の企業倒産(負債総額1千万円以上)は4件、負債総額22億53百万円(東京商工リサーチ調べ)。前月に比べて件数は2件増加、負債総額も19億58百万円増加。

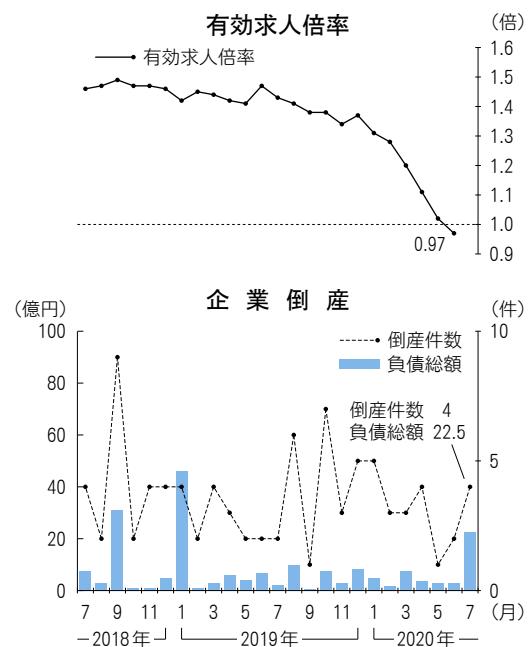
### 大型小売店販売額・乗用車販売台数推移

(前年比増減率)



「経済産業省・山梨県自動車販売店協会」

### 雇用情勢・企業倒産の推移



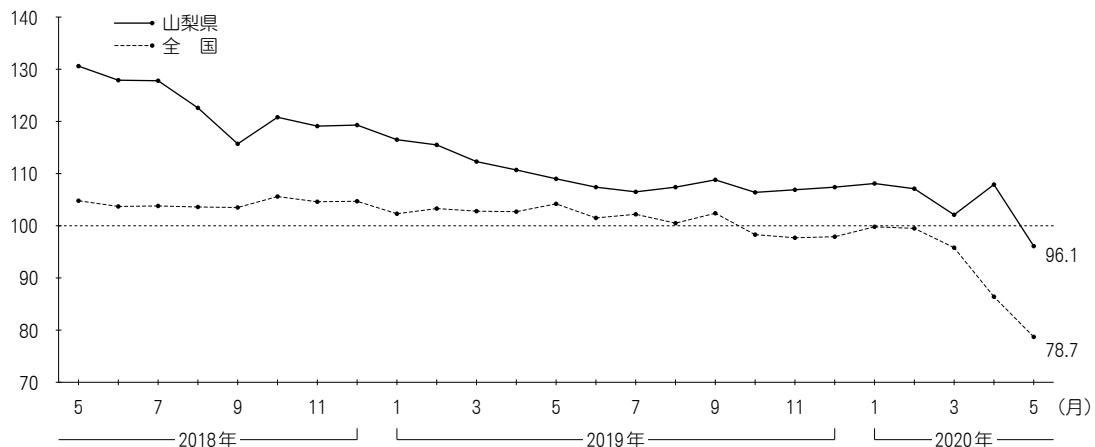
「山梨労働局職業安定部・東京商工リサーチ甲府支店」

## 生産・出荷動向

- 食 品**：ワインは、昨年仕込んだ製品の本格的な出荷時期を迎えており、総体としては低調に推移。弁当類は、納入先により出荷にばらつき。中食ニーズの高まりから堅調な先がある一方、旅行業者向けを主力とする先は依然低水準。
- ニ ッ ト**：緊急事態宣言解除後、百貨店等販売店が再開したものの動きは鈍く、受注は底這いで推移。先行きについて、新型コロナウイルス感染症の動向が見通せないなか、取引先が発注を控えしており、受注量は前年を大きく割り込む模様。
- 織 物**：ネクタイ地は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で百貨店等販売店向けが大きく落ち込んだことから、受注・生産が低水準で推移。洋傘地は、展示会や催事の中止で取引機会を喪失しており、受注・生産は弱含み。
- 宝 飾**：受注・生産は、販売チャネル等によるばらつきがみられるものの、全体としては底這いで推移。緊急事態宣言の解除以降は徐々に改善の兆しがみられるが、そのペースは緩やか。採算面をみると、地金の価格が足元で急上昇。
- 電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス**：コンピュータ数値制御装置関連は、国内外での工作機械需要が弱含むなかで、受注・生産が横ばい圏。水晶振動子及びコネクタは、自動車販売の不振から車載向けの受注・生産が弱含む一方、スマートフォン向けは底堅く推移。
- 生産用機械**：半導体製造装置は、「5G」の本格化やリモートワークの拡大に伴い半導体メーカーが設備投資を積極的に実施していることから受注・生産が堅調を維持。産業用ロボット及び関連部品は、横ばい圏で推移。
- 輸送機械**：自動車部品の受注・生産は、少しずつ上向いているが水準は低位。緊急事態宣言の解除に伴い国内での生産活動が再開しているほか、海外向けにも動きがみられるが、需要の回復は緩やかで、当面は厳しい状況が続くとの声も。
- 汎用・業務用機械**：バルブ関連部品は、総じて底堅く推移。国内外において設備投資需要が停滞していることから、先行きを不安視する声も。運搬機械及び関連部品は、受注・生産が弱含み。医療機器は、受注・生産が安定的に推移。

山梨県鉱工業生産指数推移

(2015年 = 100、季節調整済)

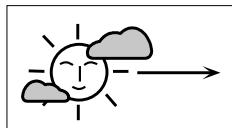


「経済産業省・県統計調査課」

- 5月の鉱工業生産指数は96.1で前月比10.9%の低下。
- 前年比(原数值)では13.4%の低下となり、21か月連続のマイナス。
- 業種別にみると、電気機械工業、窯業・土石製品工業、繊維工業等の4業種が上昇、食料品工業、情報通信機械工業、金属製品工業等の12業種が低下。

## 県内主要業界の動向

### 食品



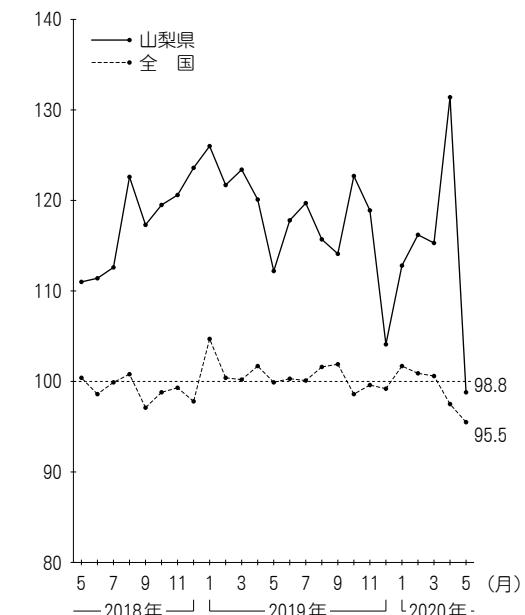
#### 弁当類は出荷にばらつき

ワインは、昨年仕込んだ製品の本格的な出荷時期を迎えており、総体としては低調に推移している。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛やホテル・飲食店の休業により受注が落ち込み、前年の在庫が膨らんでいることが背景にある。緊急事態宣言の解除に伴い卸・小売向けの出荷は徐々に上向いているが、そのペースは緩慢なものとなっている。

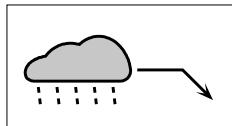
弁当類は、納入先により出荷にばらつきがみられる。同感染症の拡大に伴う中食ニーズの高まりから堅調さを維持している先がある一方、旅行業者向けを主力としている先は、依然として低水準にある。

#### 食料品工業生産指數推移

(2015年=100、季節調整済)



### ニット



#### 受注・生産は底這い

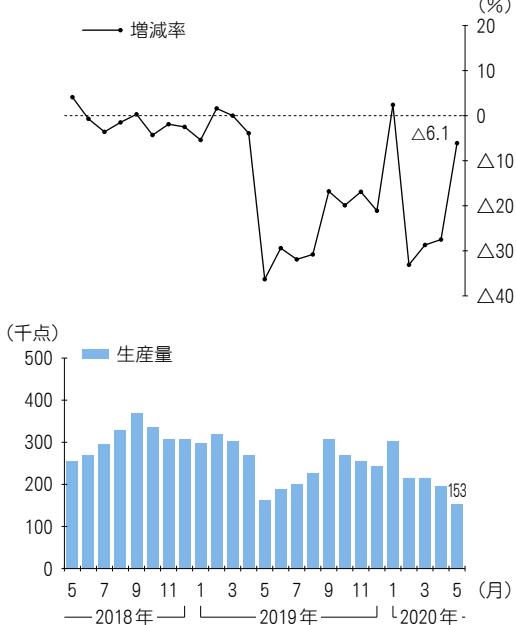
夏物の出荷が終了し、秋冬物の受注・生産に移行している。

受注面をみると、底這いで推移している。緊急事態宣言解除後、百貨店等販売店の再開に伴い回復傾向にあるが、動きは鈍い。また、先行きについても、新型コロナウイルス感染症の動向が見通せないなか、取引先が発注を控える動きもみられており、受注量は前年を大きく割り込む模様。

生産面をみると、秋冬物の生産を開始しているが、稼働率が30%～40%程度と低調となっているほか、受注ロットも小さくなっている、効率が悪いとの声も聞かれる。

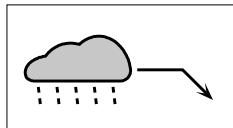
#### 全国ニット製セーター・カーディガン・ベスト類生産推移

(前年比増減率)(%)



「織維統計月報」

## 織物



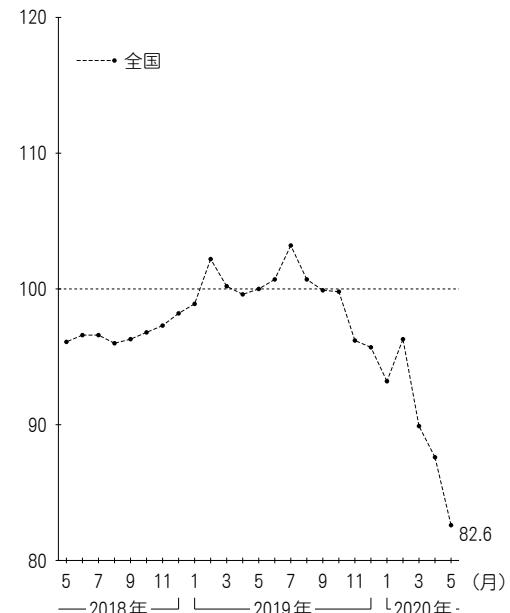
### ネクタイ地は受注・生産が低水準で推移

ネクタイ地は、受注・生産が低水準で推移している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、百貨店等販売店向けの受注・生産が大きく落ち込んだことが背景にある。先行きについて、販売店が抱える在庫は高止まっており、仕入れを抑制する動きに拍車が掛かっていることから、受注・生産は引き続き低調に推移すると言われる。

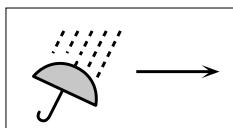
洋傘地は、同感染症の拡大に伴い展示会や催事が軒並み中止となるなど取引機会を喪失しており、受注・生産は弱含んでいる。このようななか、当地メーカーではオンラインで独自に情報発信する動きがみられる。

### 織物工業生産指數推移

(2015年=100、季節調整済)



## 宝飾



### 受注・生産は全体としては底這い

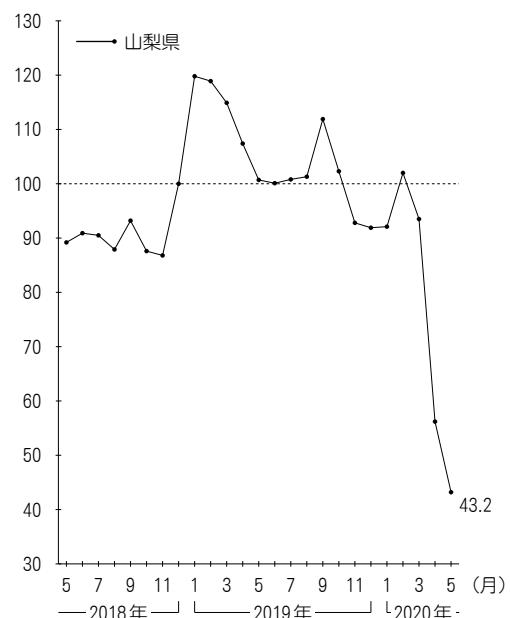
受注・生産は、販売チャネル等によるばらつきがみられるものの、全体としては新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大幅に落ち込み、底這いで推移している。緊急事態宣言の解除以降は、販売店の再開に伴い徐々に改善の兆しがみられるものの、そのペースは緩やかなものにとどまっている。

採算面をみると、地金の価格が足元で急激に上昇しており、利幅の縮小を懸念する声が聞かれる。

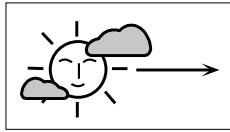
なお、7月下旬に開催されたオンラインジュエリーフェアには、県内メーカー66社が出展し、中国人バイヤー等400人超が参加した。

### 貴金属製品工業生産指數推移

(2015年=100、季節調整済)



## 電気機械 情報通信機械 電子部品・デバイス



### スマートフォン向け部品が堅調

コンピュータ数値制御装置関連は、国内外における工作機械需要が弱含むなかで、受注・生産が横ばい圏にとどまっている。

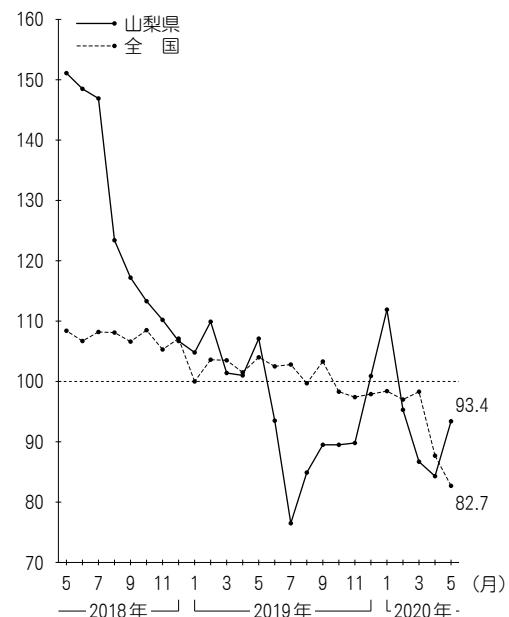
水晶振動子は、自動車販売の不振から車載向けの受注・生産が振るわない一方、スマートフォン向け、通信基地局向けは堅調に推移している。

リードフレームは、海外向けを中心に受注・生産が弱含んでいる。LED関連製品向けが横ばい圏で推移している一方、車載向けは前年を下回る動きとなっている。

コネクタは、受注・生産が底堅く推移している。車載向けが弱含んでいる一方、スマートフォン向けは安定的な受注を確保している。

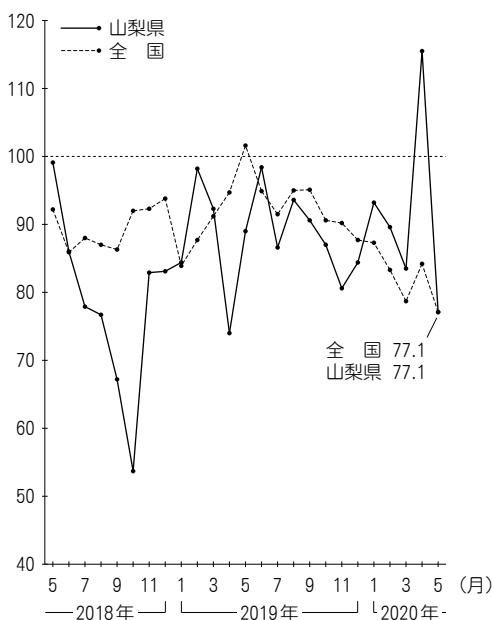
### 電気機械工業生産指数推移

(2015年=100、季節調整済)



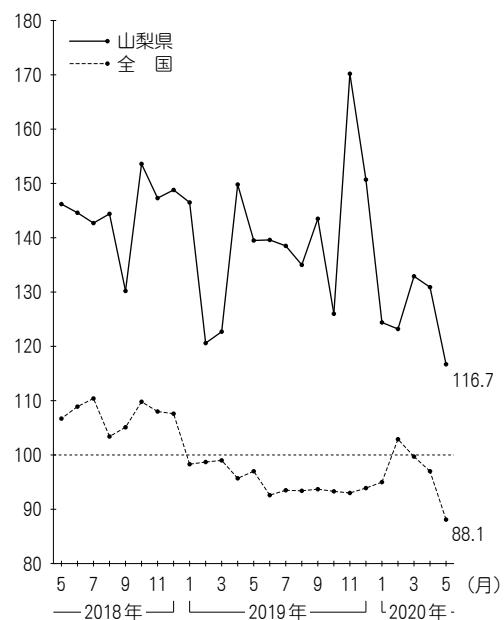
### 情報通信機械工業生産指数推移

(2015年=100、季節調整済)

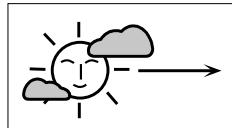


### 電子部品・デバイス工業生産指数推移

(2015年=100、季節調整済)



## ■ 生産用機械



### 半導体製造装置の受注・生産は堅調を維持

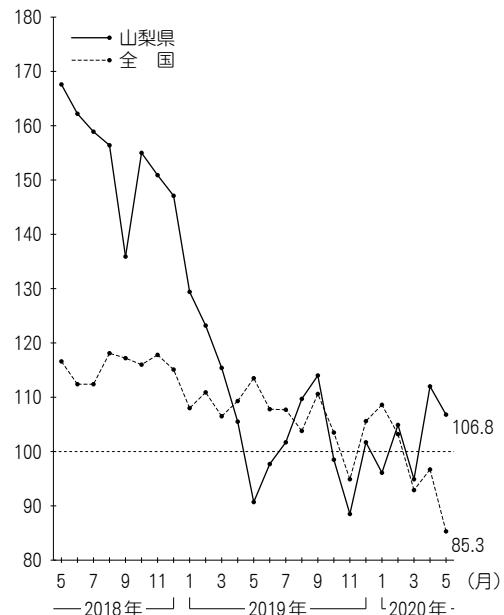
半導体製造装置は、受注・生産が堅調を維持している。次世代通信規格「5G」の本格化やリモートワークの拡大に伴い半導体メーカーが設備投資を積極的に実施していることが背景にある。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響で海外への出荷が停滞していることから、足元では在庫調整の動きもみられる。

工作機械及び関連部品は、全体としては弱含んでいるものの、中国向けに回復の兆しが窺われるなど、一部に持ち直しの動きがみられる。

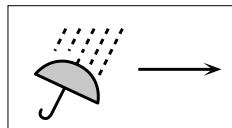
産業用ロボット及び関連部品は、横ばい圏で推移している。先行きについて、海外向けが活発化するなかで秋口から上向いていくとの声も。

### 生産用機械工業生産指数推移

(2015年=100、季節調整済)



## ■ 輸送機械



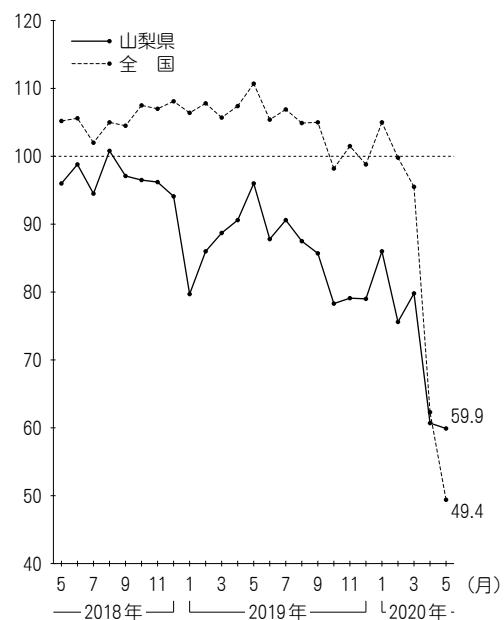
### 自動車部品の受注・生産は低水準

5月の全国の四輪車生産台数は、前年同月比61.1%減と8か月連続で前年を下回り、車種別では、乗用車が62.8%減、トラックが48.9%減、バスが77.2%減となった。また、出荷台数は、国内向けが49.8%減、海外向けは66.9%減となった。なお、二輪車生産台数は、52.9%減となり、4か月連続で前年を下回った。

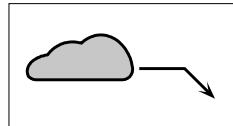
自動車部品の受注・生産は、5月を底に少しずつ上向いているものの、水準は低位にとどまっている。緊急事態宣言の解除に伴い国内での生産活動が徐々に再開しているほか、海外向けにも動きがみられるが、需要の回復は緩やかで、当面は厳しい状況が続くとの声も。

### 輸送機械工業生産指数推移

(2015年=100、季節調整済)



## 汎用・業務用機械



### 運搬機械は、受注・生産が弱含み

バルブ関連部品は、総じて底堅く推移している。ただし、国内外において設備投資需要が停滞していることから、先行きを不安視する声もある。

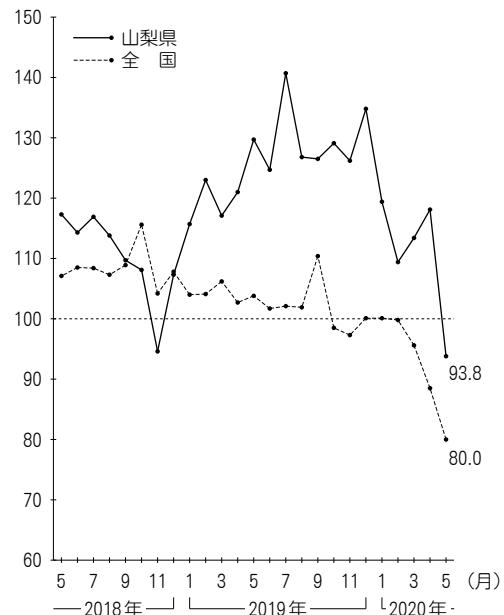
プリンタ用部品は、海外需要が弱含むなか、受注・生産が前年を下回る水準で推移している。先行きについても、当面は弱い動きが続くとみられる。

運搬機械及び関連部品は、新型コロナウイルスの影響で企業が設備投資に対する慎重姿勢を強めるなかで、受注・生産が弱含んでいる。

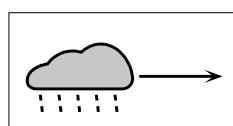
医療機器は、取扱品目によるばらつきがみられるものの、全体として受注・生産は安定的に推移している。

### 汎用・業務用機械工業生産指数推移

(2015年=100、季節調整済)



## 建設



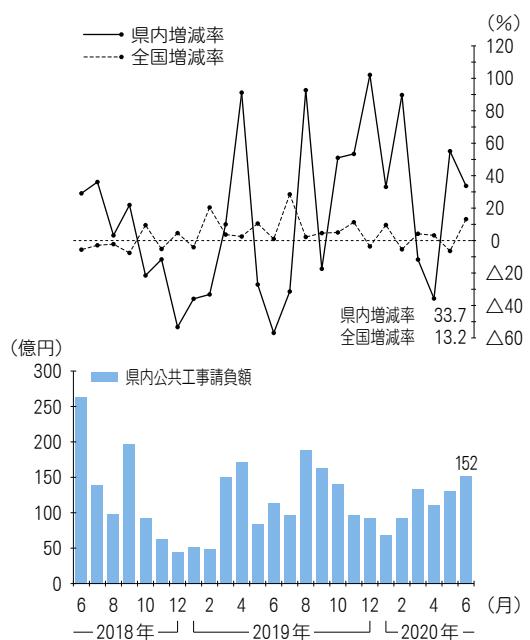
### 公共工事は2か月連続で増加

6月の公共工事保証請負額（東日本建設業保証株）は151億52百万円、前年同月比33.7%増と、2か月連続の増加。発注者別では国（前年同月比92.7%増）、県（同32.5%増）、市町村（同1.7%増）のいずれも増加した。2020年度の累計（2020年4月～6月）は393億26百万円で、前年度を6.3%上回っている。

民間工事は、景気の先行き不透明感が強まるなかで、企業が設備投資に対して慎重なスタンスをとっていることから、力強さを欠いている。なお、案件が少ないため、企業規模を問わず受注獲得競争が激化しており、工事単価は下落傾向で採算も厳しい状況。

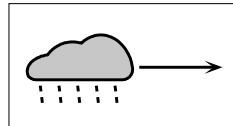
### 公共工事保証請負額推移

(前年比増減率)



「東日本建設業保証株」

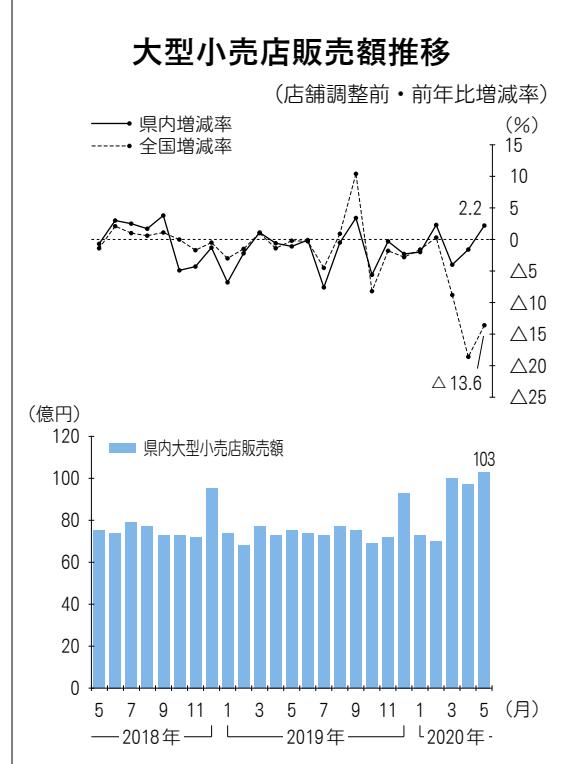
## ■ 商 業



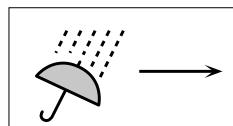
### 全体としては弱い動き

6月～7月の商況をみると、各種給付金の効果などにより一部に動きがみられたものの、不要不急の消費は依然低調であり、全体としては弱い動きとなっている。

品目別にみると、食料品は、キャッシュレス・消費者還元事業の終了に伴う駆け込み需要で高価格帯の商品に動きがみられるなど、総じて堅調。中元は、送付件数、金額ともに減少傾向が続いているものの、産直ギフトは伸長。家電品は、エアコン、冷蔵庫などの大型家電やパソコンを中心に活発化。なお、宝飾や乗用車などの高額品や外食・レジャーなど不要不急の消費は、減少幅は縮小しているものの、依然低調。



## ■ 観 光

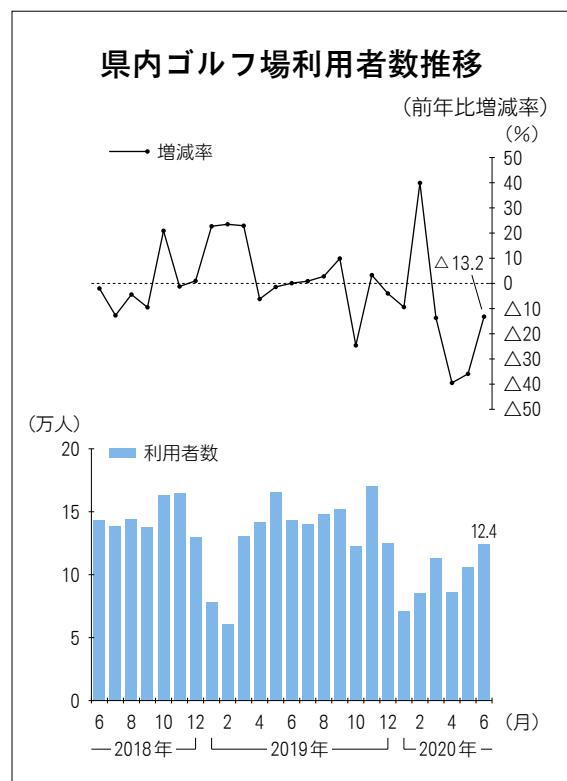


### 新型コロナの影響で低調に推移

6月の県内観光は、首都圏からの移動制限解除後、週末を中心に一時的な賑わいがみられた地域もあったものの、全体としては前年を大きく下回る状況が続いている。

県内の観光地・温泉地では、緊急事態宣言解除後、休館していた施設が徐々に営業を再開したが、入込みは総じて低調。

地域別にみると、八ヶ岳南麓や桂川流域では、移動制限の解除とともに首都圏からのトレッキング客が増加。峡東・峡西地域では、さくらんぼ狩りが最盛期を迎えたものの、首都圏からの予約が低調で、静岡県など他地域からの誘客により挽回を図る動きも。



## 県内経済トピックス

(7月を中心として)

### ■ 県内の路線価が28年連続の下落

国税庁は、1日、2020年の路線価（1月1日現在）を公表した。

これによると、県内の路線価は平均で前年と比べて0.5%低下し、28年連続の下落となった。一方で、県内の最高路線価は甲府駅前通り（甲府市丸の内1丁目）の1平方メートル当たり275千円で、前年と比べて1.9%上がり、5年連続の上昇となった。

なお、全国の路線価は平均で前年比1.6%の上昇となっている。

### ■ 第49回信玄公祭り、開催中止へ

信玄公祭り実行委員会は、1日、臨時総会を開催し「第49回信玄公祭り」の開催中止を決めた。

同委員会は、新型コロナウイルス感染症の影響で本年4月の開催を見送り、延期または中止の検討を行ってきたが、今般参加者の安全確保が難しいとの判断から、開催中止を決めた。

なお、前年の信玄公祭りは4月5日から7日の3日間開催され、観客動員総数は16万6千人で集計開始以降、最多となっていた。

### ■ 上半期倒産、件数・負債総額ともに低水準

東京商工リサーチは、6日、2020年上半期（1月～6月）の山梨県企業倒産状況を発表した。

これによると、負債額10百万円以上の倒産件数は18件であり、前年同期と比べて1件増加したものの、1989年以降で2番目の少なさとなった。また、負債総額は23億21百万円で、前年同期と比べて43億87百万円減少し、同年以降3番目に少なかった。

なお、業種別では建設業が最多く、原因別では販売不振が全体の9割弱を占めている。

### ■ 県内の高齢化率、全国を上回る水準

山梨県は、14日、2020年度の高齢者福祉基礎調査（4月1日現在）の結果を公表した。

これによると、県内の65歳以上の高齢者は249,709人であり、前年（247,645人）と比べて2,064人の増加となっている。

また、高齢化率（65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）は、30.4%であり、前年と比べて0.5ポイント上昇している。なお、この水準は全国平均（28.6%）を1.8ポイント上回っている。

### ■ 中部横断自動車道、全線開通に遅れ

国土交通省甲府河川国道事務所は、17日、中部横断自動車道（新清水JCT～増穂IC間）第6回連絡調整会議の開催結果を公表した。

これによると、中部横断自動車道の南部IC（インターチェンジ）と下部温泉早川IC間（13.2キロメートル）について、想定以上に地盤が悪く、同区間の工事の見直しが必要となつたため、開通時期を2020年内から2021年夏頃に変更するとした。なお、当該区間は中部横断自動車道の最後の未開通区間となっている。

### ■ 雇用安定センターと県内2つの会議所が連携

産業雇用安定センターと甲府商工会議所、富士吉田商工会議所は、22日、「雇用を守る出向支援ならびに企業における人材確保等に関する連携協定」を締結した。

本連携により、新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に雇用過剰となった企業と人手不足等の企業との間で行われる雇用シェア（在籍型出向）の活用促進を図っていく。

今後は、両会議所会員の人材ニーズに関する情報の共有やセミナー等の開催を行っていく。









### 2の付くお金

以前、「香港の紙幣」（2018年9月12日当行HP掲載分）でご紹介したとおり、現在発行されている香港の紙幣は、10ドル、20ドル、50ドル、100ドル、500ドル、1,000ドルの6金種です。2018年末に新紙幣の1,000ドルが発行され、2019年に20ドル、50ドル、100ドル、500ドルの新紙幣も順次発行されました。最近では新紙幣も市中に出回り、使用する機会も増えてきました。

また、香港では補助貨幣（硬貨）として10セント、20セント、50セント、1ドル、2ドル、5ドル、10ドルの7種類が流通しています。

このように、香港では20セント、2ドル、20ドルと、2の付くお金が流通しています。香港以外でも、米国の20ドル紙幣、イギリスの20ポンド紙幣、EUの20ユーロ紙幣など、欧米主要国をはじめ多くの国々で2の付くお金が流通しています。

一方、日本の2の付くお金に関しては、今から20年前に、西暦2000年（ミレニアム）と沖縄サミットの開催を記念して、当時の小渕総理大臣の発案で2,000円紙幣が発行されました。それ以前にも、明治から昭和初期にかけて2銭、20銭、2円、20円、200円の硬貨や紙幣が発行されましたが、いずれも現在では発行停止になっており、この2,000円紙幣だけが流通しています。

しかし、2,000円紙幣は、発行時こそ物珍しさで両替が殺到しましたが、その後の流通量は低調に推移し、最近はほとんどお目にかかることがありません。さらに、2024年（令和6年）に新紙幣が発行されますが、2,000円紙幣は流通量が少ないと理由から、改刷されないことになりました。このように、日本では「1」と「5」以外の数字のお金はあまり流通しない環境にあります。

日本から初めて香港を訪れる方は、2の付くお金の使い方に戸惑ってしまうかもしれません、実際に使ってみると非常に効率がよいです。

例えば、90ドル（約1,260円）を用意する場合、20ドル紙幣があると、50ドル紙幣1枚と20ドル紙幣2枚、合わせて3枚の紙幣で済むため、商店やレストランなどでは釣銭準備の負担が少なくなります。

それでは、なぜ日本では2の付くお金がはやらなかったのでしょうか。

理由の一つとしては、戦後長らく「1」と「5」以外の数字のお金が流通しなかったため、日本人は2の付くお金の使い方に慣れなかったことが挙げられます。

もう一つの理由として、そろばん（算盤）が挙げられます。今では、計算手段としては電卓やパソコンなどにその座を奪われ、ほとんど見かけることがありません。上側（天）にある一つの珠の五珠（ごだま）と、下側（地）にある四つの珠の一珠（いちだま）からなるそろばんの構造が、日本人にとって「1」と「5」の数字のお金に慣れやすい環境になったと思われます。

既に20年前には電卓やパソコンが主流になっていましたので、もし2,000円紙幣だけでなく200円硬貨も同時に発行し、もう少し日本人が2の付くお金に慣れる環境をつくっていれば、2,000円紙幣の流通も増えていたかもしれません。

発行 山 梨 中 央 銀 行  
編集 山梨中銀経営コンサルティング

〒400-0031 甲府市丸の内一丁目20番8号

☎ (055) 224-1032

山梨中央銀行 URL:

<https://www.yamanashibank.co.jp/>